

NPOワンポイントアドバイス!

「会議」を効果的・効率的に行うことができれば、組織は成長していきます。
 そのためには、会議のタイプ別攻略法を知ることが必要になってきます。
 そこで、前号(43号)に引き続きタイプ別に具体的な攻略法をお伝えしていきます。

3. アイデアを出す会議

「アイデアが出るか出ないかは時の運」ではありません。次のポイントを大切にすると、アイデアは出やすくなります。

- A:** 「何のために、何についてのアイデアを出すのか」を、全員が見える場所に書き出しておく。
- B:** “いつものメンバー”以外に、その分野に詳しい人や違う世代やバックグラウンドを持つ人などにも、積極的に参加してもらう。
- C:** いつもと違う場所や雰囲気のところ、テーマの現場で開催する。
- D:** 「出たアイデアを批判しない」とか「他人のアイデアの真似や便乗も歓迎」といった“安全空間”をつくっておく。
- E:** まず「個人が考える時間」を設けてから、全体で討議する。
- F:** とにかく数多く出す。そして、自分の出したアイデアに固執せず、出された多くの中からベストを選ぶ。
- G:** ホワイトボードや模造紙などに出されたアイデアをどんどん書いていって、可視化する。
- H:** 長い時間をかけて考えるのではなく、短い時間で考えるのを繰り返す。
- I:** 過去や習慣やルールに縛られたり、真面目に考えすぎたりしないようにする。
- J:** 普段からアンテナを高くしておくと同時に、腰を低くして色々な人の話を聞ける人になっておく。

参考:青木将幸著『市民の会議術 ～ミーティング・ファシリテーション入門』ハズオン埼玉出版部



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

平昌オリンピックが終わりました。北海道感を前面に出して一躍人気になった女子カーリングのように、冬季五輪は道産子が活躍することが多いので、テレビ観戦も盛り上がります。

良い結果を残した選手が様に口にしたのが、「チームワークの良さ」や「周りの人達への感謝」だったのも印象的でした。結果を出すためには、どの分野でも様々な人たちの協力や支援が必要なのだ、あらためて教えてもらえました。

その冬季五輪ですが、残念なことに函館出身の選手を見ることができません。

函館よりずっと規模が小さくても、多くの選手を輩出しているまちがあります。常呂のカーリングや、下川町のスノーボード、苫小牧や釧路のアイスホッケーのように、競技場や指導者、地域の人々の支援等の環境が整っていると人が育つことが良く分かった大会でもありました。

環境を整えるというのは、簡単なことではありません。お金も、年月もかかります。しかし、環境がないことで、本当は活躍できたかもしれない才能を開花させられないまま終わってしまうというのは、とても残念です。

そこで大切になってくるのが、自ら環境をつくりだしていくこと。本格的な施設をつくることは難しくても、人や本などとの出会い、様々な体験の機会を増やしていく事で自分の力を開花させることができれば、メダリストと同様の喜びを味わえるかもしれません。